

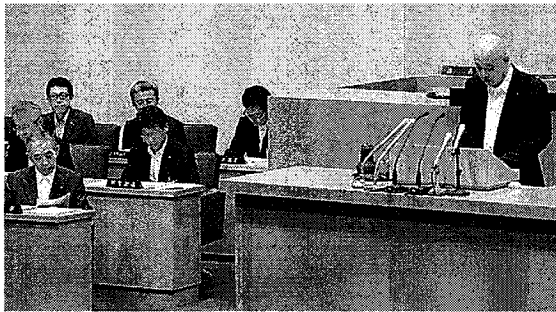
## 島根3号機申請可否判断

# 溝口知事 問われる主体性

### 県議会委 論拠提示 異例の注文

規制基準適合性審査申請を巡り、島根県の溝口善兵衛知事が可否判断を明らかにせずに6月定例県議会が6日閉会した。県議会総務委員会(9人)は反発し、意見の表明時に県民に論拠を示すよう異例の注文を付けた。県民から相次ぐ新規

稼働の必要性の疑問に対する対応を含め、知事の主体性が問われている。6日の本会議で登壇した総務委の池田一委員長が「審査・調査を通して議論を重ねた総務委員会一同として、強く求める」と述べ、審査申請に対する知事の姿勢を批判した。



異例の注文を付けた池田一総務委員長(右)の報告に耳を傾ける溝口善兵衛知事(手前左)―松江市殿町、島根県議会

背景には、可否判断について、知事が立地自治体の松江市と、原発から30km圏内の周辺自治体の意見を聞いて判断するとの考えを繰り返し、自らの判断を避け、他者に委ねているとの不満がある。総務委は、4日に一度まとめた委員長報告の文案を本会議前日の5日に変更し、あえて知事への注文を盛り込んだ。報告では「最終判断する際には、知事自らが判断に至った論拠、考えについて県民にわかりやすく示すことを強く求める」

この言葉で締めくくった。審査申請の可否判断に不可欠な判断材料の提供に、県が積極的に関わるよう求める声も上がる。総務委や県原子力発電所周辺環境安全対策協議会、県原子力安全顧問会議顧問、中電主催の住民説明会では、新規稼働の必要性

に対する疑問の声が相次いだ。中電は他電源より発電コストが安く、山陽側で老朽化する火力発電所の代替電源にしたいと主張するが、根拠が曖昧との指摘が続く。総務委の大国陽介委員(共産党)は「中電の説明が不十分なら、県が必要性的に独自に検証すればいい」と強調する。県に対し、仮に審査申請を認めるにしても、稼働の必要性の

根拠を明示するよう中電への付帯意見に盛り込むべきとの声も上がる。県議会の反発をよそに、本会議の閉会あいさつで「関係自治体すべての意見を聞き、事前了解の扱いを最終的に決定する」と述べた知事。目の前に浮上した課題にどう対応するか。8月にも関係自治体の意見が出そろおうとみられ、残された時間は少ない。(高橋利明)